歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-15	更新日	2025/2/20
サイト名	『出雲国風土記』では黄泉(よみ)の穴とされた海食洞(かいしょくどう)～猪目洞窟(いのめどうくつ)		

基本情報		
	区分	☐有形　☐無形　☑その他
	所在地	出雲市猪目町
	指定別	「猪目洞窟遺物包含層」国指定
	種別	史跡名勝天然記念物
	指定／登録年月日	1957（昭和32）年7月27日
	管理団体／モニタリング	
	周辺施設／アクセス	☐トイレ　☐売店　☐飲食店　☐駐車場（　　台） 山陰道　出雲ICから約20km、約40分 JR出雲市駅より日御碕行バス約60分の出雲大社連絡所にて路線バスうさぎ線に乗り換え約35分の猪目本町下車し、徒歩約3分
	留意点	2022（令和4）年度にジオサイトから文化サイトに見直した。

サイトの解説		
	歴史・文化	縄文時代から古墳時代にかけて、主として埋葬や生活を物語る数々の遺物が発見された洞窟で、『出雲国風土記』に記載のある黄泉の穴はこの洞窟だとする説がある。 『出雲国風土記』に「夢にこの磯の窟の辺に至らば必ず死ぬ。故、俗人古より今に至るまで、黄泉の坂、黄泉の穴と名づくるなり」と書かれている。この洞窟からは、縄文時代から古墳時代の遺物・人骨が発見されており、特にゴホウラ製貝輪6点を装着した弥生時代の人骨は有名で、貝輪などは島根県指定文化財に指定されている。
	地形・地質、生物・生態等	猪目の洞窟は、緑色凝灰岩（グリーンタフ）とよばれる酸性の火山噴出物が堆積した地層にできた海食洞である。この崖をつくる凝灰岩の色は、噴出した凝灰岩が数百度のマグマ起源の熱水によって変質したためで、薄～濃緑色まで濃淡に差がある。緑色層は緑泥石やスメクタイトでできているが、ここでは緑泥石よりなる。雨でぬれるとその緑色は一層引き立ちきれいである。このような緑色の直線的北傾斜をもった崖と海食洞とが一体となった存在は、周囲の暗色で凹凸に富んだ岩石と異なって、この場所の神秘的な一画をなしている。

写真・図等		

参考文献	